

坂井輪地区公民館運営審議会会議概要

実施年月日	平成26年度 第2回運営審議会 平成26年11月27日(木) 実施		
会場	西区役所 3階303会議室	出席委員 11名	傍聴人なし
出席者	委員		伊藤智之、伊藤浩美、菊池三男、郷扶ニ子、佐藤克子、高木裕、高橋真規子、田村ユキ枝、鳴海丈支、土屋浩、横坂幸子
	事務局	坂井輪地区公民館	山田久美子、渡辺郁夫
		西地区公民館	前田和隆、南部浩美
		黒埼地区公民館	鳴海俊明、小竹憲幸
		小針青山公民館	大科俊夫、渡邊ますみ
議題	1 平成26年度西区公民館事業中間報告(10月末現在)について 2 公民館の活性化について 3 平成27年度新潟市公民館事業の基本方針について		
審議内容について以下に記載する。			
山田坂井輪地区公民館長あいさつ、郷議長あいさつに続き審議に入る。			
(1)平成26年度西区公民館事業中間報告について(10月末現在)について			
坂井輪地区公民館 山田館長	平成26年度坂井輪地区公民館事業中間報告(10月末現在)について補足説明。		
西地区公民館 前田館長	平成26年度西地区公民館事業中間報告(10月末現在)について補足説明。		
黒埼地区公民館 鳴海館長	平成26年度黒埼地区公民館事業中間報告(10月末現在)について補足説明。		
小針青山公民館 大科館長	平成26年度小針青山公民館事業中間報告(10月末現在)について補足説明。		
佐藤委員	黒埼地区公民館の事業のネーミングが「公民館へ行かNIGHT」となっているが、どういうことで。		
鳴海館長	宿泊するので「公民館へ行かNIGHT」とした。		
伊藤(浩)委員	何月頃か。		
鳴海館長	夏休み。		
横坂委員	坂井輪地区公民館の女性セミナー「これから働くママ応援講座」の内容について教えていただきたい。		
山田館長	基本的に育児休業中の母親が職場復帰に必要なことを学び、友達作りをしてみらおうという企画である。1歳未満の子どもの保育付で実施している。		
横坂委員	西地区公民館事業の出前型パソコン教室は中学校との連携事業で回数10回		

	<p>は凄いことだ。</p> <p>小針青山公民館の2-9と5-23が障害をもっている方のサポートを地域でしようとしている姿が特徴的に出ている。募集人数を上回る参加者数があり、関心も高かったことがわかる。とてもよい企画だと思う。</p>
高橋委員	<p>公民館で発達障がい児関連の事業をやることはとてもハードルが下がると思う。これからも継続をお願いしたい。</p>
郷議長	<p>坂井輪地区公民館の幼児期家庭教育学級は1歳児限定となっているが、どういうねらいか。</p>
山田館長	<p>働いているお母さんが多い地域なので、2歳児、3歳児になると女性セミナー「働くママの応援講座」ともつながる。それで、幼児期は1歳児のお母さん方ということで敢えて限定している。</p>
高木委員	<p>坂井輪地区公民館の4-15と16について、今後の予定はどのようなことを考えているのか。</p>
山田館長	<p>坂井東小学校で書初め展に地域の書道サークルからご協力いただけないかとご依頼がきている。地域教育コーディネーターから相談があれば、こちらとしても一緒にやっていきたいと思っている。</p> <p>各学校の地域教育コーディネーターがいろいろな通信を作っているので、掲示場所を1階のフリースペースに設置することで準備に入っている。</p>
伊藤（智）委員	<p>公民館活動協力員の制度についてお聞きしたい。</p>
山田館長	<p>基幹公民館5名程度、地区公民館は多いところで8名くらい、各館の実情に応じて活動協力員をお願いしている。運営審議会は公民館運営についてご意見をいただくものであるが、公民館事業に協力して下さったりご意見をいただいたりするもので、新潟市独自の制度。任期は2年で2期までということをお願いしている。</p>
伊藤（浩）委員	<p>坂井輪地区公民館事業の活動協力委員企画事業「新聞を極める」の内容はどのようなものか。</p>
山田館長	<p>第1回は黒埼地区にできたおもしろ新聞館を見学し現代の新聞について見る。その後、みなとぴあの学芸員から新聞の歴史を振り返ろうということでお話を聞く。2回目、3回目は新潟日報の部長さんから質疑応答形式で新聞についての疑問とか、これからの方向性についてお話を聞くといった内容だ。</p>

(2) 公民館の活性化について	
山田館長	資料2に基づき公民館利用の推移について説明。
郷議長	コミュニティセンターの設置やコミュニティ協議会の活性化で地域の自治会館でのサークル活動も活発化しており、公民館の利用者数・利用団体数が減少傾向になる中で、公民館の活性化、利用増、団塊の世代の男性に足を運んでもらう施策など忌憚のないご意見をいただきたい。
伊藤（浩）委員	高齢化によりサークル活動の継続が難しくなったり、定年延長などでサークル活動が新たにできないという感じがある。
高橋委員	子育て世代は共働きが多くなっている。子どもが1歳くらいまでは育休があるが、仕事に復帰すると公民館活動ができない。受け身の立場で参加できても、自主的なサークル活動は減ってきている。
郷議長	会を運営していくことが難しくなる。
高橋委員	定期利用団体だと総会もあり、役職につくということがとても重荷になる。不定期利用団体で登録しても利用できるの、負担の少ない方向に進む傾向がある。
横坂委員	公民館利用の数が多くなったら良くて、少なかったらどうということではなく、生涯教育の場としての活動が十分なされているか、適正な利用数はどれくらいか考えることが必要だ。 共働きが多くなっているが、公民館に通える育休中に公民館で生涯学習の根っこを作ると何かの形で地域に帰ってくる。子育て、親育てということを公民館がしていくといいのではないかと思う。
伊藤（浩）委員	小針青山公民館の協議会では、子育てサークルは役職から外し負担を軽くしてあげるといふこともある。
郷議長	サークル単体の問題ではなく、そのサークルを育てていこうという周りの支援が活動を続けていける力になるのでは。利用数だけでは判断しきれないことはあると思うが、公民館に足を運ぶ人が少なくなっているというのも現実だ。
菊池委員	公民館は地域づくり、人づくりの場だから、公民館で育った人が地域でどんなふうに参加できるか、お手伝いできるかに知恵を絞ったほうが、今後はより大切になってくると思う。 人とのかかわり、人の絆、地域の絆をつくるには、あいさつが非常に重要だ。公民館で学習したことを地域に還元するには周りに声掛けできるかどうか、考えていく必要がある。
伊藤（智）委員	昔から言われているが、あいさつというのはなかなか定着しない。組織的に率先してやるというのが一番大切だ。先日、ある中学校にいったら、先生の努力に生徒が呼応するという一体性が大切だと思った。学校の環境も変わってきているし、本当に感心した。

佐藤委員	<p>郷議長、菊池委員、伊藤（智）委員のお話をお聞きしながら、あいさつが重要であることを感じた。あいさつすることによってコミュニケーションが生まれ、あいさつがなければコミュニケーションは生まれない。</p> <p>講師の高齢化、利用者の高齢化なども利用数減少の大きな原因かと思う。昨日、ある会合でお聞きした話だが、「二十何年続いたサークルが高齢化で消滅した。生きがいなくなり、公民館へ通っていた人がいかに張り合いがあったかをしみじみ感じた。今、なんとかこの虚脱感から脱却したい。皆さん、なにかしましょう」という素晴らしい声を聞きました。こういう人たちと手を携えて、また何かをやっていかなければと実感した。</p>
菊池委員	<p>公民館で展開している事業がそこだけで終わる、学校で教育しているのは学校だけで終わる、それは何か寂しい気がする。学習の還元というか、地域で学んだことを活かす。それにはコミュニケーションが大切で、コミュニケーションできる最初のつながりはあいさつからだ。</p>
田村委員	<p>手話をやっているが、学んだことを地域に還元するということをずっと考えていた。今年は6月、9月、10月に地域に出向いた。それが前進の一步かなと思う。楽しく手話をやって広めるという一つのつながりになったと思う。</p>
土屋委員	<p>利用団体からの声かけを積極的にしていく必要がある。公民館としては対象をだれにするか、時間をどこに設定するとか、ニーズや内容など内容を考えていく必要がある。</p> <p>自分の地域を語れる子どもが少ない。身近に佐潟があっても子どもたちは佐潟のことをよく知らないことから、西地区公民館と一緒に佐潟を学ぶという講演会を実施した。そういったことも仕掛けていく必要がある。</p> <p>赤塚地区はあいさつがいい、小学生も地域の人もよく声をかける。学校としてももっと地域とのかかわりを広め、積極的に進めていかなければと思う。</p>
高木委員	<p>五十嵐中学校校区もあいさつ運動に取り組んでいる。小学校3校、中学校1校。学校で協力してあいさつ運動の習慣を作る。学校だけでなく、育成協議会とタイアップして明るいあいさつというのぼりを100本作っていただいた。地域ぐるみであいさつ運動を推進している。公民館で活動している方もタイアップしてあいさつ運動が行えると大変いい取り組みになっていくのではないかなと思う。</p> <p>公民館を利用している方から学んだことについて、子どもたちに活かしていただける場を多く設けていただきたい。こんなことを子どもたちに話ができるとか、こんなことを教えられるとかかという情報があると、各学校には地域教育コーディネーターがいるので、その人を通してコンタクトをとって子どもたちの指導に当たっていただける場面ができていくと思う。</p> <p>また、子どもが学んでいるときに大人も学校で学ぶ機会を作ろうということで、学校は地域の学びの場の拠点づくりということに取り組んでいる。特別教室など子どもが使っていない時間を活用して、地域の大人も学びを深めていく</p>

<p>郷議長</p>	<p>という活動を積極的にやっていきたい。昨年度までは公民館事業として出前講座や料理教室を行ってもらったり、地域教育コーディネーターがリース作りや香水作りもやってきた。そういうことを公民館利用団体の方とタイアップしてやっていけばいいと思っている。</p> <p>公民館の活性化は、ただ単に来てくれる人を増やす、団体を多く作るということではなく、公民館は支え合う場なので、なかなか独り立ちしにくい定期利用団体を互いに支え合っていく活動、地域とコミュニケーションをとって声かけするなどいいお話をいただいた。</p> <p>学・社・民融合パートナーシップ事業の大きな目標のひとつに学校を拠点とした学び場作りがある。学校の学びと公民館の学びは何が違うかということ、子どもがいるかないか。子どもがいるところで大人が学び合っているというのは、坂井東小学校では調理実習とか読み聞かせ講座などの学びの場をやっているが、子どもたちが覗きに来て「何しているの」と聞く。「今、大人たちの勉強会だよ」と言うと、「大人になっても勉強しなければだめなの」と感想を言っていく子どももいる。それが私たち大人が子どもたちに見せる一つの姿ではないか。日常の中で大人も子どもも学び、地域でも声かけあってという活動を広げていく、パートナーシップ事業の目的も子どもたちの学力向上ではなく人づくり、地域づくりを挙げているので公民館の活動とリンクしていくのではないかな。</p>
<p>山田館長</p>	<p>高木委員から学校と連携事業をというお話もあった。これからも連絡を密にして協力し合っていきたい。</p>
<p>前田館長</p>	<p>利用数ではなく内容が大切、公民館で学んで人が地域でどういう活動をするかということも見ていく必要がある。</p>
<p>鳴海館長</p>	<p>黒埼地区には毎月校長会があり、学校といろいろな話をしている。地域教育コーディネーターは地域の役員とかコミュニティ協議会に入っている人がほとんどなので、連携がしやすくなっている。</p>
<p>大科館長</p>	<p>公民館で学んだことを地域、学校、家庭にどれだけ還元できているか、そのことをどういう形で客観化できるか、だれが見ても分かる資料を考えなければならぬ。</p>

(3) 平成27年度新潟市公民館事業の基本方針について	
山田館長	資料に基づき、平成27年度新潟市公民館の基本方針について説明。